



松林を

再生

防風林は、生活環境の変化や農地の遊休化とともに、次第にその役割が忘れ去られ、人々の意識の中から消えつつあります。

松くい虫の被害により松林は著しく減少し、景観を損ね、一部に残っているわずかな松林によって、その面影をしのげばかりです。

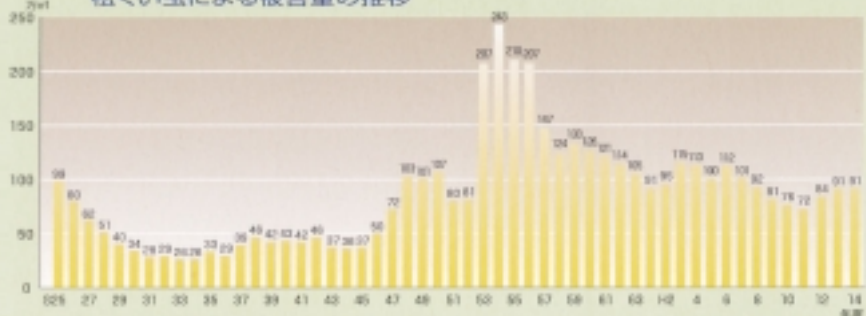
このような状況に危機感を感じ、平成17年度に「袋井市海岸防風林松枯れ対策研究会」を立ち上げ、防風林を再生するための取り組みを始めました。

松くい虫…日本各地で異常な松枯れをもたらしている松の伝染病のことです。松くい虫という虫はおらず、病気を引き起こす原因は「マツノザイセンチュウ」という体長1mmにも満たない線虫です。この線虫は、自分で移動できないためマツノマダラカミキリの体を利用して移動します。

浅羽海岸防風林

浅羽海岸の防風林は、潮風や季節風、飛砂により、農作物の栽培に適さない海岸砂地の土地を農地に転換するために、植えられた海岸林の

松くい虫による被害量の推移



林野庁資料から



ことで、古くから地域の皆さんの努力により守り育て上げられてきたものです。生活、文化に根付いてきた森林として地域の誇るべき財産です。
 湊・太郎助・西岡笠・東岡笠・大野・中新田地区の海岸に位置し、防風・防潮・飛砂防止のため、人工的に造成された森林を浅羽海岸防風林といっています。

海岸防風林の機能

防災機能

海岸の防潮堤を保護し、津波や台風による高波から受ける災害を防止します。

塩害防止機能

潮風に含まれる塩分をとらえ、空気中の塩分を減らすことで、塩害を防止します。

保健・風致機能

砂浜や海とともに美しい海岸の景観を形成し、散策や憩いの場として生活にゆとりを与えます。

目指す海岸防風林の姿

浅羽海岸防風林は、潮害防止機能が期待される森林であり、その美しい景観から沿岸地域の象徴的な存在です。機能や景観をより効果的に維持できるように最も潮害防止機能の求められる海岸側に連続的に林帯を整備します。

また、内陸部の住宅や工場周辺は、松くい虫被害のない広葉樹などを組み入れた混交林を目指し、防災機能の速やかな回復と継続的な林層の形成を進めます。地域の皆さんに散策や憩いの場を提供できる海岸防風林づくりを目指していきます。

グリーンウエーブキャンペーン

昨年引き続き、5,000本の抵抗性クロマツの苗木を植えます。申し込みは不要です。ご家族お誘い合わせのうえ、お越しください。

日 平成19年2月4日(日)

時 午前9時

所 浅羽海岸(湊地内ほか)

詳しくは、後日本紙でお知らせします。

